

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年6月27日時点)

➤ **露軍が各正面で攻勢を強め、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続する一方、ウクライナ軍は火砲や砲弾、防空ミサイルなどの不足に直面する中で防御戦闘を継続**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者50万人以上 (英国防省24年5月31日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- 「ウ」メディアは、戦況について以下のとおり報道 (6月24日)
- 米国からの新たな武器・弾薬流入で、2か月以内に露の前進は停止し前線が安定化すると予想されていたが、「ウ」軍は遅延させるに留まっている。
- 「ウ」軍関係者は、露が今夏、**ポクロウスク**、**ハルキウ**及び**チャシフ・ヤール**方面に注力する可能性が高いと予想
- 現在、最も激しい戦闘が行われているのは**ポクロウスク**方面で、**7万人の露軍人が集中**
- また、**チャシフ・ヤール市の占領**も、露にとって今夏の重要な目標。これにより、露は、**クラマトルスク～スラビャンスク都市圏**に到達可能となる。

- 米国防総省報道官は、「ウ」は**今後16か月**で必要とされる全てのものを手に入れる、**晩夏**までに手に入れる**防空兵器は数百**になる等と発表 (6月20日)
- 米ワシントンポスト紙は、「ウ」当局者によれば、米供与武器での露領内への攻撃が可能となったことで、**露の攻撃の一部が減少**したとする一方、米国の露領内への砲撃を**国境から100km以内に制限**していると報道 (6月21日)
- ゼレンスキー大統領は、**6月初め**からだけでも露は**2,400発以上の滑空誘導爆弾**を使用し、この内の約700発がハルキウ州に対するものとした上で、同爆弾を運搬する戦闘機などを破壊するための戦力と手段が必要と発言 (6月22日)
- 「ウ」空軍司令官は、**24年1月1日**以来、露が「ウ」領に対して「**Shahed**」無人機**× 2,277機**を発射したが、「ウ」防空部隊が1,953機、すなわち**約86%**を撃墜したと発表 (6月25日)



- 露メディアは、露軍がハルキウ州**リプツィ**に対して、**3t級の滑空誘導爆弾「FAB-3000」**を初めて使用したと報道。「ウ」空軍報道官は、使用したと結論付けるには調査が必要との認識を表明 (6月20日、21日)
- 「ウ」国営電力会社「ウクルエネルギー」は、露の大規模複合攻撃により、ザポリヅジャ州とリヴィウ州にある同社施設が損害を受けたと発表 (6月22日)
- 露国防省は、「ウ」軍が、米国供与のクラスター弾頭搭載**ATACMSミサイル**で、クリミア半島**セヴァストープリ**市の民間施設を攻撃したと主張。露防空部隊が4発を迎撃も、1発が空中で爆発して被害をもたらしたと発表 (6月23日)
- 「ウ」ドネツク州当局は、露軍が、**地対地弾道ミサイル「イスカンデル」**×2発により、**ポクロウスク**を攻撃し、少なくとも5人が死亡、41人が負傷と発表 (6月24日)

- 主要都市 (下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点 (接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等